

DI

Premium Edition

患者指導ワンポイントレッスン
おしこの悩みを抱える
女性への対処法

DIファイル

添付文書の改訂情報 他

バクダ

2014年3月10日発行(毎月10日発行)通巻197号

特集

認知症

薬局でできること、
すべきこと

Report

なぜ評価される
病院薬剤師

病棟から手術室、専門外来、在宅へ

日経DIクイズ

高用量アスピリンは
“抗血小板薬”か

薬剤師のための情報サイト[DIオンライン]

<http://di.nikkeibp.co.jp/>

「日経DIモバイルスマートフォン版」

「日経DIデジタル」

いずれもこちらから

<http://di-s.nikkeibp.co.jp/>

ユーザー訪問 **全快堂薬局臨港店** (新潟市東区)

「ミスゼロ子」を使わない調剤は、シートベルト非着用での乗車と同様

新潟市の全快堂薬局臨港店では、調剤過誤を防止するために(株)クカメディカルが開発したバーコードピッキングシステム「ミスゼロ子」を導入している。薬剤の取り間違い、規格間違いを防ぐのに特に有用とし、その効果を実感しているという。

患者との信頼関係構築に努力

全国で薬局を展開する(株)ファーマみらい(佃敏之社長、本社:東京都千代田区)が運営する全快堂薬局臨港店(新潟市東区)は、2004年4月に開局。新潟西港に近く、近隣の総合病院の患者が最も多く来局する。処方箋応需数は1日70~80枚、備蓄医薬品目数は約1400。常勤薬剤師4人、事務員3人、フロアレディ1人の体制で、混雑時にも速やかな対応を目指しているという。

「近くの総合病院は小児科を設けていないので、来局される患者さんの多くは中高年~高齢者です。港が近く、工場なども近隣にあるため、外国人の患者さんもいます。どんな患者さんが来られても、それぞれのニーズを汲み取って、個々の患者さんに即した情報を提供できるように心がけています」

こう語る同店管理薬剤師の古河原健人氏は、薬剤師本位の服薬指導にならないように努めていると強調する。



「ミスゼロ子」はもはや欠かせないシステム」と語る全快堂薬局臨港店管理薬剤師の古河原健人氏

「薬歴を記載したいがための聞き取りであってはならないと思います。患者さんのお話をささげらずに最後まで聞き、信頼関係が生まれる空気をつくるのが大切。そうすることで、私たちの服薬指導に対する協力・理解が得られ、服薬コンプライアンスも高まると考えています」

今後、チーム医療の一員として他職種との連携が深まる中で薬剤師の機能が発揮できるよう、視野を広くし、様々な知識とスキルを身につけることも必要だと古河原氏は話す。

「ミスゼロ子」で得られる高い安心効果

(株)ファーマみらい(2013年8月1日付けでトモニティ(株)から(株)ファーマみらいへ商号変更)は、ファーマスクエア(株)や(株)みらいなど計7社が資源最大化と最適化目的で合併し、2013年11月に新たなスタートを切った。全快堂薬局は旧みらいの薬局の1つだが、その系列のほぼ全店舗で導入しているのが「ミスゼロ子」である。「ミスゼロ子」は調剤カセットにバーコードシールを貼り、それをハンディ端末で読み取って調剤ミスを防止するバーコードピッキングシステム。「ミスゼロ子」

のマスタには、発売されているほとんどの薬品が登録されており、箱やシートに表示されているJANコード、GSI-RSSコードのどちらにも対応しているため、利便性が高い。

「システム構築の費用はかかりますが、調剤過誤を減らすためには『ミスゼロ子』が有用だと判断しました」と、(株)ファーマみらい業務管理本部情報システム部主任の圓山貴志氏は明かす。その導入効果は明確にあらわれた、と古河原氏はいふ。

「取扱品目数が増えれば増えるほど、取り間違いをしないかどうかと不安感がつのります。後発品の調剤が多くなればなるほど、『ミスゼロ子』があつてよかったと感じます。また、取り間違いだけでなく、規格間違いをほぼゼロにすることも可能です」(古河原氏)

同店では、処方箋情報をレセコンで入力後、ハンディ端末でピッキングするのを基本としているが、薬剤数が多い場合などはレセコン入力を待たずに集薬し、レセコン入力完了後照合をかけている。そうした過程で、「レセコンの入力間違いもチェックできるのも便利」と古河原氏は話す。

さらに、調剤カセットに薬剤を充填する時にも「ミスゼロ子」は威力を発揮するという。「先発品の調剤を行った後で後発品に変更する場合もあり、こうしたケースでは先発品をカセットに戻すわけですが、シートのGSI-RSSコードを読み取って戻せば、戻し間違いのミスも防ぐことができます」(古河原氏)

一時に多く患者が来局した時、薬剤師の人数が少ない店舗で「ミスゼロ子」は特に有用とした上で、古河原氏は次のように指摘する。「患者さんがお帰りになった後で、調剤ミスをしていなかったかどうか不安になることがあります。そうした時も再度患者データを『ミスゼロ子』で呼び出して確認ができるので、この安心感は非常に大きいと思います。また、薬剤師の年齢や経験に左右されないで使えることも魅力の1つ。今や、『ミスゼロ子』を使わないで調剤することは、シートベルトを着用しないで車に乗るようなものだと感じています」



総合病院の門前に位置する全快堂薬局臨港店は、前面がガラス張りである開放的な空間が生まれている



シートに表示されているGSI-RSSコードや調剤カセットに貼ったバーコードシールをハンディ端末で読み取るだけという簡便な操作性も「ミスゼロ子」のメリットの1つ